

冠婚葬祭に関する支出

- 家計調査（二人以上の世帯）結果より -

新年を迎え、皆様はいかがお過ごしでしょうか。成人の日も過ぎ、成人式に出席された方もいらっしゃるのではないのでしょうか。そこで今回は、冠婚葬祭費についてみてみましょう。

ここでは、婚礼関係費、葬儀関係費、他の冠婚葬祭費（七五三、成人式費用など）の合計を冠婚葬祭費としています。

年間収入階級別に見る支出金額の差

まず、年間収入五分位階級別に1世帯当たり冠婚葬祭費の年間支出金額（平成13～17年平均）を見ると、第～階級では2～3万円であるのに対し、所得の最も高い第階級では約5万円と多く、最も少ない第階級の約2.5倍となっています（図1）。

図1 年間収入五分位階級別の冠婚葬祭費
（全国・全世帯）
- 平成13～17年平均 -

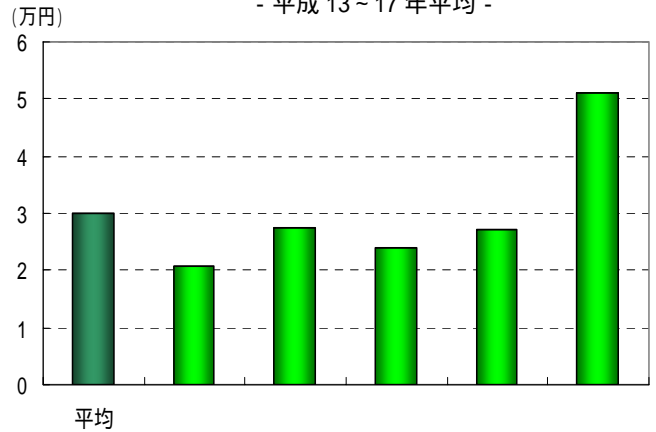


図2 世帯主の年齢階級別の冠婚葬祭費及び消費支出に占める割合（全国・全世帯）
- 平成13～17年平均 -

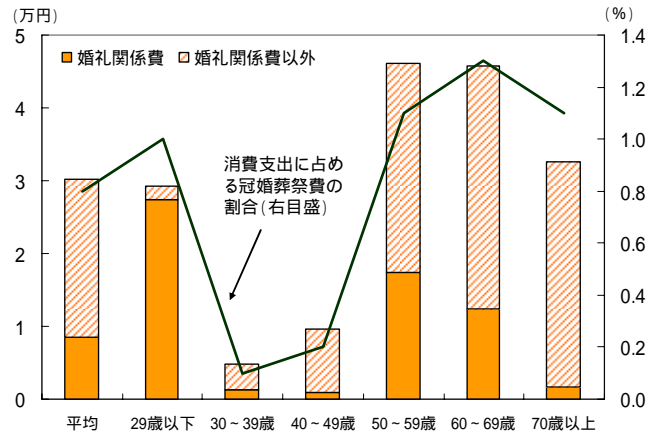
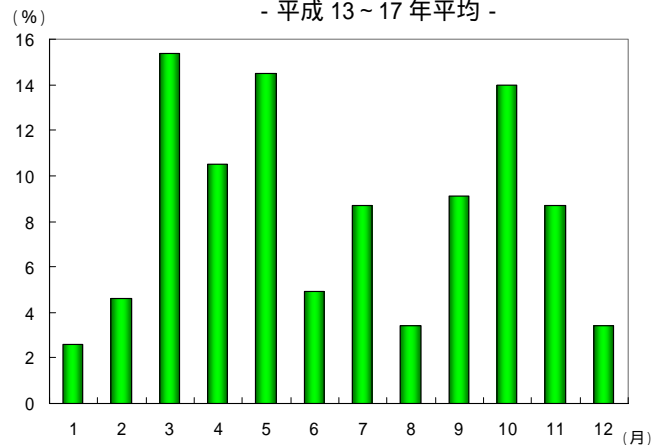


図3 婚礼関係費の月別支出割合の推移（全国・全世帯）
- 平成13～17年平均 -



若年世帯で多い婚礼関係費の支出

次に、世帯主の年齢階級別に1世帯当たり冠婚葬祭費の年間支出金額を見てみると、50～59歳の世帯が最も多く、次いでわずかな差ですが60～69歳の世帯となっています。なお、消費支出に占める冠婚葬祭費の割合は、60～69歳の世帯で最も高くなっています。

また、冠婚葬祭費の中の婚礼関係費について見ると、29歳以下の世帯が最も多く、次いで50～59歳の世帯、60～69歳の世帯となっています（図2）。

春と秋に高い婚礼関係費の支出

最後に、1年間に支出した婚礼関係費の月別支出割合について見てみると、3月が15.4%と最も高く、次いで5月の14.5%、10月の14.0%となっています。一方、1月は2.6%、8月と12月は共に3.4%となっており、夏場や年末年始の支出割合は低くなっていることがわかります（図3）。